

第1回子ども子育て会議 会議録（要点筆記）

開催日時 平成28年3月14日（月）午後7時～8時30分

開催場所 南砺市福野庁舎202会議室

出席者氏名：青山喜美子、新敷秀子、伊豆多都子、大蔵博子、唐嶋田鶴子、河合禄美、木村涼子、
藏田静栄、齋藤優華、中嶋興四雄、中田利佳、中道實、西井秀子、長谷川邦子、
松永晴義（15名）

欠席者氏名：安地英吏子、斎藤茂男、齋藤史朗、中島純子、山田清志（5名）

事務局：杉村稔（民生部長）、宗井由栄子（福光保健センター）、武田秀隆、堀川茂治、溝口早苗、
高野あずさ、柳瀬理絵（こども課）

傍聴人数：0名

1. あいさつ

民生部長 子ども子育て支援計画が平成27年度からスタートした。子ども子育て会議は、平成25年度に条例に基づき1回目の会議を開催し、委員の任期は2年となっている。4月から94の事業がある総合戦略プランが5年の計画でスタートしている。人口が減少していくなかで、少子化対策については、通院医療費助成の自己負担の撤廃、保育料の軽減措置の拡大を計画している。

今回は作成した計画をPDCAサイクルにあわせて平成28年度は、数値目標について実績を報告し、委員のみなさんからの意見をお願いしたい。

2. 委員委嘱

事務局 委嘱については、机上にある委嘱書をもって代えさせていただく。任期は平成29年の3月31日まで。

3. 委員紹介

事務局 委員の紹介は名簿に替えさせていただく。欠席の委員は4名で、2名がまだ到着していない。本日出席の委員は14名。この会議は、子ども子育て会議条例に基づき開催されており、条例についてもご一読お願いしたい。

4. 会長と副会長の選出

事務局 子ども子育て会議の条例第4条により、委員の互選で選出とあるが、いかがか。
(事務局一任との声あり)

事務局 事務局案として、前回に引き続き、会長 南砺市民生委員児童委員協議会の西井秀子さん 副会長として南砺市連合婦人会の長谷川邦子さん を提案。

(拍手により承認)

5. 会長あいさつ

会長 国の予算についても子育てが大きく取り上げられている、昨年度作成した「なんとっ子すぐすくすくプラン」について、計画の進捗の確認、見直し、推進を行っていきたい。委員のみなさんについては、各組織の代表として活発な意見をいただきたいと思う。この会議が意義のあるものとなるよう、よろしくお願いしたい。

6. 協議事項

事務局 資料の確認 会議の公開について説明。

会長 最初に協議事項（1）平成27年度「教育・保育、地域子ども・子育て支援事業」の状況について。

事務局より概要の説明

南砺市教育・保育、地域子ども・子育て支援事業について資料に沿って説明。

- p 1 0歳から5歳までの子どもの人口は、平成31年度には16.2%減少する見込み。
6歳から11歳までの子どもの人口は、平成31年度には11.7%減少すると見込まれる。
- p 4 南砺市内の教育施設は、幼保連携型の認定こども園である福野青葉幼稚園、福光青葉幼稚園、保育所型の井波にじいろ保育園がある。
保育施設は、市内の公立保育園、喜志麻保育園合わせて15園である。
- p 5 地域型保育事業の小規模保育事業、家庭的保育事業、居宅訪問型保育事業は、現在のところ市が認可したものはない。
- p 6 相談支援事業の地域子育て支援拠点事業について、市内9か所の子育て支援センターの利用人数が昨年度に比べて減少している。その理由については、同じ人が午前と午後利用された場合は2件のカウントをしていたが、実人数でのカウントとなつたため。また、保育園入園年齢の低年齢化に伴い、減少したと考えられる。平成28年度からは、2か所の子育て支援センター（たんぽぽ・にこにこ）で土、日曜日の開設を予定している。
- p 8 一時預かり事業については、全ての保育園・幼稚園における提供量が記載されている。1号、2号認定以外の利用の主なものは、県外からの里帰り出産時の保育の受け入れ、母のリフレッシュや病院受診等である。
延長保育事業については、表内の平成27年度の見込み人数の差異について、60を33に訂正する。
病児保育事業について、病後児保育は喜志麻保育園と公立保育園で実施しており、体調不良児については、喜志麻保育園で対応している数が計上されている。
- p 9 放課後児童クラブについて、平成27年度から2つのクラブを新規に開設した。利用者については、「概ね4年生まで」であったものが制度の開始に伴い「小学校6年生まで」と拡大した。5、6年生の利用について、新規の申込みはないが、4年生から引き続き利用する継続利用者は見られる。
ファミリーサポート事業について。放課後児童クラブの利用時間は6時30分までだが、送

迎が間に合わない場合、ファミリーサポート事業で対応している。平成26年度から平成27年度の増加の内訳は、放課後児童クラブの延長利用である。

会長 今までの事務局の説明での質問について。

事務局 補足説明。1号認定等、用語の説明。新しい制度では、保育の必要性について、市町村が認定を行うことになっている。1号認定とは、認定こども園の満3歳以上で、学校教育のみの就学前の子どもである。2号認定、3号認定は保育を必要とする子どもである。
福光青葉幼稚園、福野青葉幼稚園については、幼保連携型の認定こども園であるので、3歳未満の保育を必要とする子どもを3号認定として受け入れることができる。
昨今、保育園入園の低年齢化に伴い、未就園児が利用する子育て支援センターの利用者が減少したものと推察される。

副会長 ファミリーサポート事業について、これだけ急激に利用者数が増加しているが、受け皿としては十分なのか。

事務局 ファミリーサポート事業の利用者は、放課後児童クラブの時間外利用がほとんどである。放課後児童クラブのスタッフの多くが協力会員として登録し対応している。

会長 病児保育事業について、計画と実績の乖離が大きいことについて、どのように考えているか。

事務局 病後児保育は、喜志麻保育園と5か所の公立保育園を拠点とし実施している。利用者数が伸びないことについては、利用することで別途料金がかかることが考えられる。また計画においては、各園2部屋の病後児保育の部屋があり、毎日全ての施設で2人の利用が見込まれると、この計画のような数字となる。金銭的な問題や利用料について、検討が必要と考えている。

A委員 委嘱書の日付がなぜ平成27年4月1日となっているのか。委嘱されてこのような会議に出席するということは、責任の一端が発生するので、責任の所在が明らかになるように今日の日付で差し替えるべきでは。

事務局 会議の開催が遅れてしまったことについて、お詫び申し上げたい。この会議は条例に基づく会議であり、各施設の利用定員の設定や地域型保育事業の利用定員を定めるときにこの会議を開催し、諮ることとなっている。また、この子ども子育て支援計画を立てるとき、変更するとき、検証するようなときに開催することとなっている。今後は、支援計画の実績、次世代育成計画の進捗状況について各課から報告をいただき、会議でも報告していきたいと思っている。来年度は実績が出たとき、利用定員の変更が出たときに開催したい。
委嘱書の日付等について、差し替えも含めて検討する。

- 会長 新規開設の放課後児童クラブはどこになるのか。
- 事務局 閉園する吉江保育園跡に福光東部小学校の子どもたちを受け入れる。現在、東部小学校の児がバスに乗ってきつずらんどクラブへ通うという不便を強いているので、解消するため開設するものである。きつずらんどクラブは福光中部小学校の児童の受入を継続する。
- 会長 計画の推進を点検していくこともこの会議の役割である。設置目的に記載されているように、会議を開いて委員の意見を反映していただきたい。
- 事務局 利用定員について。
- p 1 1 平成28年度の定員変更と入園申し込み状況について
新規で、福光東部かがやき保育園を開園する。定員は220名。これは、保育園審議会の答申等に基づき、吉江、山田、北山田の3つの保育園を統合し、あらたに新設するものである。認可定員は、今後の見込み等を勘案して設定するものである。
届出・認可定員の変更について、表中の27年度と28年度の数字が逆になっているので訂正をお願いしたい。
城端さくら保育園は出生数、就学前児童の減少により、来年度30名の定員減とし、定員に対しての入園児の充足率は85.7%となる。福野青葉幼稚園について、定員を20名増とする。充足率は、現状の100%から88.8%となる。
- 会長 ただ今の説明での質問について。
- B 委員 保育園に関する予算を計上するときの根拠となるものは。
- 事務局 11月の入園申込状況を見て、当初からの入園、途中入園を加味して予算に計上している。
- C 委員 幼稚園の希望者が多いということではなく、幼稚園においても0～2歳児の受入について希望が多いため、施設としても十分ではないが、定員を拡大する必要が出てくる。実際0～2歳児の入園も増えており、三世代同居が多い地域ではあるが、保護者が子どもの小さいうちから働くという現状がある。
- 会長 総人數の定員に対して余裕はあるが、0から2歳児という小さい子どもを受け入れる確保量が不足しているのでは。
- C 委員 保育士不足は大きい。保育の質の向上を目指すことも必要だが、子どもの少ない時間ではあるが、保育士資格のない人の協力も求めていかなければ保育士の不足も解消できない。
- 副会長 福野ひまわり保育園は、3歳から5歳児（3歳以上児）の定員には余裕はあるが、0歳から

2歳児（3歳未満児）の定員は余裕がないのか。

事務局 就園前に利用していた子育て支援センターの保育園へそのまま通いたいという保護者のニーズもある。

A 委員 保育園へ行くことでいろいろな感染症をもらってくる。中には完治しないまま保育園へ出されることもある。園内において、感染症対策まで保育士さん達が対応できていないこともあるのではないか。感染症が蔓延しない対策をとってほしい。

D 委員 感染症に対しては、十分に対応している。玄関での消毒、マスクの設置、咳が出ている児に対してはマスクを着用するよう促している。また、換気も時間を決めて行っている。

事務局 感染症の対応については、園内で感染症の流行が始まると、3歳から5歳児（3歳以上児）と0歳から2歳児（3歳未満児）が交流しないよう対策はとっている。中には発熱があっても園へ出していく保護者がいるということが現状としてあるが、保護者への理解と協力を行政としても求めていくことが必要と思っている、

副会長 実際は発症していないても、感染して潜伏期間にある人への対応が難しい。

会長 園としての対策も必要だが、保護者の協力が得られないと難しいという現状もある。その他に何かご意見は。

E 委員 今回初めてこのような会議に出席したが、今後の会議での協議内容や開催頻度についてはどうか。

事務局 平成28年度は5～6月に1回、定員等の変更も考えて年度末に1回開催したいと考えている。次回は次世代育成の計画の進捗や実績について、各課でとりまとめて報告し、みなさんのご意見をいただきたいと思う。

B 委員 新しい委員の方へはあらかじめ内容や資料について事前に送付し、案内があった方がいいのではないかと思う。

F 委員 p5の小規模保育事業について、南砺市では実施施設がないという報告であったが、寺子こどもえんの活動を数に反映させてほしい。

会長 子どもたちをすくすくと育していくために、わたしたちは環境を整えていかなければならぬ。

7. 閉会のあいさつ

民生部長 いろいろな不手際についてお詫び申し上げ、今後ともどうぞよろしくお願ひしたい。組織変更については、来年度幼保小連携の充実のため、こども課が教育委員会に編入される。次回はここに掲げてある事業の実績が出た頃に、教育委員会こども課として会議を開催する予定にしている。

今年度建設中の福光東部かがやき保育園が4月5日に竣工し、これですべての統合保育園の建設が終了する。今後は保育園のあり方ということを市として討議していくことが必要である。保育園審議会では、今後2年間かけて保育のあり方として、民営化の検討等も行っていく予定である。

子どもの貧困などについても調査を行い、子どもが健やかに育っていけるような事業等も考えていきたい。次の会議まで日を待たなくとも、気づいたことなどあればこども課までご意見をいただきたい。

8：39 終了